

〈報告〉

江別市自治基本条例の普及に向けた短編 PR 動画制作

島田英二*

Production of Short Promotional Videos for Promoting the Ebetsu City Basic Ordinance on Local Autonomy

Eiji SHIMADA*

要旨

江別市自治基本条例の市民への理解促進を図るため、北海道情報大学情報メディア学部映像表現系ゼミナール（島田ゼミ）では、令和6年度（2024年度）の活動として短編PR動画の制作に取り組んだ。本プロジェクトは、行政と大学の連携による地域貢献活動の一環として実施され、学生が企画・撮影・編集の全工程を担当した。制作された動画は令和6年10月19日（土）に開催された江別市自治基本条例フォーラムにおいて初公開され、同条例の普及・啓発に寄与した。本報告書では、企画立案から完成に至るまでの制作過程と成果について詳述する。

Abstract

To promote understanding of the Basic Ordinance on Local Autonomy of Ebetsu City among its residents, Eiji Shimada's seminar (Faculty of Information Media, Department of Information Media, Hokkaido Information University) produced a series of short promotional videos during the 2024 academic year. In this university-government collaboration project, students handled all aspects of the films' creation, from conceptualization to post-production. The videos premiered at the Ebetsu City Basic Ordinance on Local Autonomy Forum on 19 October 2024, helping to raise public awareness of the ordinance. This report details the production process and outcomes of these films, from planning to completion.

キーワード

PR 動画制作 (PR video production) 自治基本条例 (Basic ordinance on local autonomy)
産学官連携 (University-government collaboration) 地域貢献 (Community contribution)

* 北海道情報大学情報メディア学部情報メディア学科教授, Professor, Faculty of Information Media, Department of Information Media, HIU

1. はじめに

江別市自治基本条例の市民への理解促進を図るため、令和6年度（2024年度）において、北海道情報大学情報メディア学部映像表現系ゼミナール（島田ゼミ）では、江別市との連携により短編PR動画の制作プロジェクトに取り組んだ。本プロジェクトは、大学の教育活動と地域貢献を両立させる自治体・教育機関連携の実践例として位置づけられ、学生が主体となって企画から完成まで全工程を担当した。制作された動画は令和6年10月19日（土）に開催された江別市自治基本条例フォーラムにおいて初公開され、参加者から好評を得た。本稿では、企画立案から完成に至るまでの制作過程と成果について詳述し、今後の類似事業における参考資料として提供する。

2. 背景と目的

本プロジェクトの主たる目的は、江別市自治基本条例に対する市民の理解促進を図ることである。同条例は市民参加によるまちづくりの基本原則を定めた重要な規範であり、江別市の最高規範として位置づけられている。令和6年10月には江別市自治基本条例フォーラムの開催が予定されており、条例が基本原則として掲げる協働や市民参加について、市民により深い興味関心を持ってもらうことが期待されていた。そこで、映像メディアという親しみやすい手法を用いることで、条例の意義や内容をより分かりやすく市民に伝達し、住民自治への関心と参加意識の向上を目指すものである。

また、本プロジェクトは、大学教育における実践的学習の機会提供という教育的目的も併せ持つ。映像表現系ゼミナールに所属する大

学生が、実際の地域課題をテーマとした制作活動に取り組むことで、以下の教育効果を期待した。

①実践的スキル学習

第一に、企画立案から完成まで一貫した制作工程を経験することによる、実践的スキルの習得である。学生は、ターゲット分析、コンセプト設定、脚本作成、撮影、編集といった映像制作の全工程を自ら担当し、専門的な技術と知識を実地で学ぶ機会を得る。

②地域社会に対する理解を深める

第二に、地域社会との連携を通じた社会性の涵養である。行政機関との協働により、学生は社会人としての責任感やコミュニケーション能力を身につけ、地域社会に対する理解を深めることができる。

③課題解決型学習

第三に、課題解決型学習（Problem-Based Learning）の実践である。抽象的な条例内容をいかに具体的に理解しやすい映像表現に変換するかという課題に取り組むことで、創造性と論理的思考力の向上を図る。

さらに、本プロジェクトは、大学と地方自治体による自治体・教育機関連携事業のモデルケース構築という目的も有している。大学が持つ専門的知識・技術と学生の創造性を地域課題の解決に活用することで、相互にメリットのある持続可能な協力関係の構築を目指した。このような取り組みを通じて、今後の自治体・教育機関連携事業における参考事例を提供し、地域社会と高等教育機関の更なる連携促進に寄与することを意図している。

3. 制作物

本プロジェクトの制作物は以下の通りであ

る。

3-1 条例解説編

・企画意図：江別市自治基本条例に対する市民の理解促進を図るため、同条例の基本的な概念と意義について解説する。映像は、視聴者が親しみやすいようアニメーション形式とした（図1）。

- ・ターゲット：一般市民
- ・フォーマット：1920×1080px / H.264 / 16:9
- ・作品長さ：2分37秒
- ・担当学生数：2名（統括：荒関葵）
- ・制作体制：企画・編集：荒関葵, 編集協力：箭内悠人
- ・使用技術：アニメーション素材の制作には動画作成ツール「Renderforest」を使用し、一部にAI動画生成技術を活用した。ナレーション音声は日本語AI音声読み上げソフト「音読さん」を使用し、音楽はロイヤリティフリー音楽サービスArtlistから選出した。各素材の統合編集は映像編集ソフトAdobe Premiere Proで行った。
- ・制作プロセス：条例の解説は専門的内容であるため、条例の条文(全文)、解説書やパンフレット、リーフレット等を参照して原稿を下書きした。実際に使用するナレーション原稿については、江別市役所職員および江別市自治基本条例検討委員会委員長の藤本直樹氏（北海道情報大学経営情報学部教授）による監修を受けた。



図1 条例解説編（作品画像）

3-2 市民参加編

- ・企画意図：市長が参加する実写映像とし、フレンドリーな演出で江別市役所や市民参加をより身近に感じてもらうことを目指した。画面比は縦型動画とし、スマートフォンでの視聴を想定している。コンテンツの内容も「クイズ」や「雑学」など気軽に視聴できるバラエティ要素を取り入れ、作品尺は1分以下のショートコンテンツとした。ターゲット：30-40代の家族層、特にスマートフォンユーザー
- ・参考資料：浦添市 TikTok 市長
- ・映像構成：動画の最初と最後に市長が登場し、中間部分は市職員が出演するパートとすることで、編集においてリズムを作れる構成とした。
- ・撮影企画：「市民が主役」編、「書き初め」編、「クイズ」編、「雑学」編の4つの企画を立案した。最初に市長のスケジュールを決定し、1日に複数の企画をまとめ撮りすることとした。
- ・撮影実施：2024年10月2日（水）13:30から半日で実施した。時間配分は、4つの企画案における市長の撮影に約3時間、職員の撮影に約2時間半を充てた。
- ・編集方針：3名が企画別に分担し、主にスマートフォンの動画編集ソフトやアプリ（後述）を使用して編集を行った。
- ・制作体制：
 - 参加人数：7名
 - 撮影参加学生：5名（統括：高橋一平）
 - 企画・脚本・監督：高橋一平
 - 撮影：佐藤高貴
 - 録音：高橋航陽
 - 録音補助：星海輝
 - 照明：近佑一朗
 - 編集：関諒夏, 寺嶋剛志, 佐藤高貴
- ・使用機材・技術：
 - 撮影機材：iPhone 15 Pro
 - 録音機材：SENNHEISER MKH 416, Zoom H4

編集ソフト・アプリ：CapCut, InShot,

Adobe Premiere Pro

・フォーマット：1080×1920px / H.264 / 9:16

①「市民が主役」編（48 秒）

・編集担当：関諒夏

・編集ソフト・アプリ：Adobe Premiere Pro, CapCut

・内容：「江別市ではあなたが主役です」と市長が語りかけ、市民に対して「パブリックコメント」や「アンケート調査」などの活用を呼びかける。市長は「あなたが主役」と書かれたタスキを持ち、市民に配るために走っていく演出となっている。

②「書き初め」編（58 秒）

・編集担当：関諒夏

・編集ソフト・アプリ：Adobe Premiere Pro, CapCut

・内容：市長が筆で半紙に文字を書き、市民参加の 5 つの例（意見公募・アンケート調査・ワークショップ・附属機関等・市民説明会）を説明する。書道が得意な市長が、出来栄えに満足している様子も収録されている。

③「クイズ」編（41 秒）

・編集担当：寺嶋剛志

・編集ソフト：Adobe Premiere Pro

・内容：市長が市民参加に関するクイズを出題する。「どれが市民参加か？」として、ワークショップ・市民説明会・アンケート調査を提示し、正解は「全部」であることを明かす。最後に江別市のキャラクター・えべっちゃん（実写）が登場する。

④「雑学」編（39 秒）

・編集担当：佐藤高貴

・編集アプリ：InShot

・内容：「人に教えたくない雑学を言う市長」というテロップの下、市長が市民参加などについて説明する。全体を短い 4 つのブロック

に分け、市民参加の対象・パブリックコメント・市民説明会・えべっちゃんを紹介している。

・参考資料：僕らの別荘（TikTok）、トリビアの泉 ～素晴らしきムダ知識～



図2 市民参加編（作品画像/左から企画1,3,4）

3-3 市民協働編

・企画意図：市民協働がどのようなものかを理解していない、または気づいていない市民に向けて、日常的に行っていることも市民協働の一つであり、既に市民協働に参加していることを伝える。

立案背景：江別市のマスコットキャラクター「えべっちゃん」を積極的に活用し、NHKのTV番組『ダーウィンが来た！』内のシュールアニメ「マヌールのゆうべ」のように、限られた登場キャラクターによる4コマ漫画的なショートアニメーションの制作を企画した。

作品情報：

・タイトル：えべっちゃん心の声劇場

・ターゲット：若年層および30-40代の家庭

・ジャンル：ショートアニメーション

・主要登場人物：えべっちゃん、みはらちゃん

・各話長さ：約1分

・フォーマット：1920×1080px / H.264 / 16:9

・エピソード数：5話

制作体制：

・参加学生数：3名（統括：山本佳依）

・脚本：山本佳依

・追加イラスト作画：荒関葵

・編集・アニメーション：山本佳依、武藤樂

・制作プロセス：アイデアの開発段階では

ChatGPT を活用してプロットを作成した。得られた 10 個の案から候補を 5 つに絞り込み、5 つのエピソードを脚本として完成させた。

・構成：3 部構成

1) 導入パート：タイトル+テロップ「この動画はえべチュンが日常にある市民協働を分かりやすくお届けする動画です」

2) ストーリーパート：えべチュンとみはらちゃんが登場し、会話の最後は「それって、市民協働だよ！」で締めくくる

3) まとめパート：「江別市ではいろいろな人が、互いに協力し合うことで、より良いまちを目指します」

各エピソード：

・EP1「花壇の手入れ」編（1 分 10 秒）

編集・アニメーション：武藤樂

・EP2「ゴミ拾い」編（1 分 2 秒）

編集・アニメーション：山本佳依

・EP3「読み聞かせ」編（1 分 3 秒）

編集・アニメーション：武藤樂

・EP4「防災訓練」編（1 分 13 秒）

編集・アニメーション：山本佳依

・EP5「お祭り」編（1 分 20 秒）

編集・アニメーション：武藤樂

使用ソフト：Adobe Premiere Pro,

Adobe After Effects, ibisPaint



図 3 市民協働編 EP1「花壇の手入れ」編（作品画像）

4. 発表・評価

成果物は、令和 6 年（2024 年）10 月 19 日（土）に開催された江別市自治基本条例フォーラム

「見て聞いて知る『えべつの力』」において初公開された。フォーラムの第二部「情報大生が作る楽しい条例 PR 動画」では、制作した動画が大きなスクリーンで上映され、制作を手掛けた島田ゼミの 3 年生（情報メディア学部）が作品別にゲストとして登壇し、制作した感想やプロジェクトで得られた学びについて発表した（図 4）。学生たちは「動画制作を通じて自治基本条例について学ぶことができた」と語っていた。自治基本条例フォーラムで実施されたアンケートでは 66 名から回答が得られ、動画の満足度については 86.4%（57 名）が「満足」と回答している（図 5）。



図 4 自治基本条例フォーラム第 2 部の様子

【4】第 2 部 動画放映の満足度を教えてください。

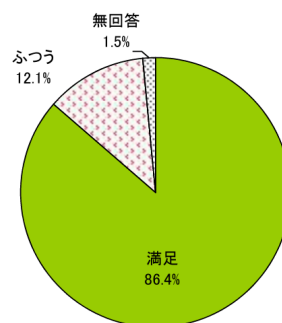


図 5 アンケート結果

本フォーラムおよびプロジェクトについては、北海道新聞（2024 年 10 月 22 日（火））朝

刊 地域面（江別版）に掲載された（図 6）。制作した動画は、江別市のホームページ（<https://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/soshiki/shiminseikatsu/134133.html>）から視聴することができる。その他、江別・野幌情報ナビ「えべナビ！」（2024 年 11 月 25 日）（<https://ebetsunopporo.com/?p=49386>）や、市長の X（旧 Twitter）でも紹介されている（図 7）。



図 6 北海道新聞江別版（2024 年 10 月 22 日（火））



図 7 江別市長の X の投稿（2024 年 11 月 21 日）

5. おわりに

本稿では、江別市自治基本条例の普及に向けた短編 PR 動画制作プロジェクトの実施について報告した。本プロジェクトは令和 6 年（2024 年）9 月から 10 月の約 1 か月間に実施した。江別市と学生を交えた最初の会議が 9 月 4 日（水）であり、自治基本条例フォーラムでの上映が 10 月 19 日（土）であることから、プロジェクトのスタートから約 1 か月半で 10 本の短編動画を制作し、完成させることとなった。無事に作品を完成させることができたのは、江別市職員をはじめとする専門家の適切な支援と迅速な対応があったこと、そして学生の頑張りがあったことに加え、制作管理面においては ICT 技術や AI 技術を積極的に活用したことが挙げられる。

5-1 スケジュールの進捗管理と技術

本プロジェクトは無事に納期までに完成させることができたが、振り返ると、スケジュールが遅れる可能性があったリスク要素としては以下の 3 つが挙げられる。

- 1) 学生たちに事前に自治基本条例の知識があるわけではなかったこと（PR する分野のインプット、学習時間が必要）
- 2) 制作する内容が事前に決定していなかったこと（学生が企画を考えアウトプットする時間、また出てきた企画をチェックする時間が必要）
- 3) 学期中のため、学生は授業のほかアルバイトなどプロジェクト以外の予定があったこと（制作に集中する時間が取りにくい）

こうした状況に加え、9 月上旬には指導教員である筆者が短期海外留学（タイ）の引率業務を担当していた。また、同留学プログラムには本プロジェクトの「条例解説編」統括学生と「市民協働編」統括学生が参加していた。ゼミ担当教員としては、彼らには初めての海外経

験に集中してもらいたいという気持ちもあったが、そのことでより工程の効率化が求められた。こうした状況下でスケジュールを円滑に進めるため、本プロジェクトでは当初から積極的に ICT 技術、AI 技術を活用した。具体的には、プリプロダクション（企画段階）での AI の援用、ポストプロダクション（編集段階）での AI サービスの使用である。今回使用した ICT および AI のサービスは以下の通りである（表 1）。

表 1 使用した ICT、AI サービス（制作当時）

項目	サービス名	料金
企画支援	ChatGPT-4（文章生成 AI）	—
絵コンテ支援	MidJourney v6（画像生成 AI）	有料
絵コンテテスト	DALL-E 3（画像生成 AI）	有料
音楽テスト	SUNO（音楽生成 AI）	—
アニメーション	Renderforest（動画生成 AI）	有料
ナレーション	音読さん（AI 音声）	有料
選曲	Artlist	—
連絡系統	LINE	—
ビデオ会議	Zoom Meeting	—
スケジュール管理	Google Spreadsheet	—
動画共有	YouTube	—
ファイル共有	Google Drive	—

5-2 制作プロセスと品質管理

「条例解説」編においては、アニメーション形式を採用し、映像部分は「Renderforest」の AI 推薦システムを活用して制作した。音声については「音読さん」によるテキスト読み上げ AI 技術を導入した。本手法により、従来の撮影機材（カメラ・マイク等）を使用することなく、ナレーション原稿の完成と同時に編集工程へ移行することが可能となった。制作プロセスにおいては、従来のアニメーション制作で行われる事前のカット割りや内容精査よりも、テキスト入力による AI アニメーション生成と音声データの合成によって早期に仮完成

版を試作することができた。こうして試作とチェックを繰り返すことで段階的にブラッシュアップを行う手法を採用した。ここでの主な技術的課題は、AI 音声のイントネーション調整、発話の間隔（間）の最適化、およびテンプレートアニメーションのカスタマイズであり、制作期間が短くても一定水準の品質管理（QC）を実現した。

「市民参加」編については実写撮影形式を採用し、撮影日程が決定された時点で、進捗管理が明確化された。編集工程における効率化として、4 つの編集タスクを 3 名の担当者で分担し、1 名あたり約 1 分間の編集作業に集約することで効率化を図った。また、各自のスマートフォンで編集作業が可能であったことは、修正作業を含む全体的な作業効率向上に寄与したと考えられる。実写映像制作において学生が苦手とする美術・小道具準備、キャスティング、撮影場所設営等の制作準備については、江別市職員による迅速かつ包括的な支援が提供され、プロジェクト進行の円滑化に大きく貢献した。市長についても、出演者としての演技に加え、事前準備（書き初め作成等）や多様な役柄への対応に積極的に協力した。このことから、大学と自治体との協働による実写撮影においては、実務経験豊富な自治体職員の協力が、学生チームの経験不足・準備不足な点を補完し、全体的なパフォーマンスが向上することが示唆された。

「市民協働」編は 5 つのエピソードのアニメーションで構成され、えべちゅん等の主要キャラクターについては既存のデジタルデータを活用した。映像の構成はテンプレート化し、アニメーション動作は表情の変化や小さな動作に限定したパートアニメーションとすることで制作負荷の軽減を図った。After Effects を使用したアニメーション制作において、初回エピソードの完成後は必要な素材が揃っているため、後続のエピソードほど制作効率が向上した。これによって、細部の演出や配色等への注力が可能となり、結果的に作品

全体の品質が向上した。

本プロジェクトでは、チーム全体で一つの物語性のある長い映像作品を制作する手法と異なり、短い映像作品を個人単位で分担する制作体制を採用した。これにより、各担当者の作業時間の並列処理が可能となった。また、個々の制作者が完成まで一貫して担当することで、参加者の達成感および満足度が向上し、チェック等の修正作業についても迅速な対応が確認された。

スケジュールの制約があったが、本プロジェクトの完了により、プロジェクトの目的の一つである「学生の成長促進」が達成できた。また、AI 技術の積極的活用を含む本取り組みは、自治体・教育機関連携の新たなモデルとして有効な事例となり得ると評価される。本学学生が習得している映像制作技術および本学の教育研究成果は、地域の多様な課題解決に貢献するため、今後も同様の実践的取り組みを継続的に推進していく方針である。

謝辞

本プロジェクトの実施にあたり、江別市より撮影協力をはじめとする多大なご支援を賜りました。ここに深甚なる謝意を表します。

参考文献

僕らの別荘 (@bokura.besso), TikTok, <https://www.tiktok.com/@bokura.besso?lang=ja-JP>, (2025 年 5 月 30 日アクセス)。

江別市 (2022a), 自治基本条例啓発リーフレット「主役はわたしたち！みんなで進めるきょうどうのまちづくり」, <https://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/uploaded/attachment/69245.pdf>, (2025 年 5 月 30 日アクセス)。

江別市 (2023b), わたしたちがつくるえべつのまち～自治基本条例がわかるパンフレット～, <https://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/soshiki/shiminseikatsu/114903.html>, (2025 年 5 月 30 日アクセス)。

江別市 (2024c), 江別市自治基本条例 条文 (2009 年 7 月作成) (2024 年 3 月 21 更新), <https://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/soshiki/shiminseikatsu/2737.html>, (2025 年 5 月 30 日アクセス)。

江別市 (2024d), 江別市自治基本条例「条文と解説」 (2009 年 7 月作成) (2024 年 3 月改訂), <https://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/uploaded/attachment/67879.pdf>, (2025 年 5 月 30 日アクセス)。

フジテレビ系列, トリビアの泉 ～素晴らしきムダ知識～ (TV) (2002-2006)。

NHK, マスールのゆうべ, ダーウィンが来た！ (TV), <https://www.darwin-zoo.jp/character/>, (2025 年 5 月 30 日アクセス)。

浦添市 TikTok 市長 (@urasoeofficial), TikTok, <https://www.tiktok.com/@urasoeofficial/video/7156818662425447682?q=Tiktok%E5%B8%82%E9%95%B7&t=1725849936872>, (2025 年 5 月 30 日アクセス)。